

## 都立橋高等学校

【校長】 深澤 栄次      【生徒数】 539名      【学級数】 18学級



### 【実態・目標】

- 小学校・中学校から学習に対して苦手意識があり、家庭内で課題を抱える生徒がいる。また、他者とのコミュニケーションの取り方について正しく理解していない場面が見受けられる。
- 恋愛の場面では、相手を尊重することができない生徒もいる。自己中心的な行動や言動をとる場面も見られる。
- 生徒が相手を尊重する考えや態度・行動をとることができるよう、人生について真剣に考え、家族計画についても理解を深める。

#### 目標

・自らの健康への意識を高め、生涯健康を保持増進できる資質能力の育成

### 【課題・改善】

- 2学年だけでなく、全校生徒にも取り組ませる必要性がある。
- 保健と家庭基礎を教科等横断的に指導し、生涯における健康についての知識を高められるよう取り組ませていきたい。

#### ➡ 【今後の取組】

- 今後、教科等横断的に学校全体で健康教育の充実を図っていく。

### 【取組】

- 保健における性教育**  
授業を通して、生徒が性に関する正しい知識を身に付け、家族計画について理解し、望まない妊娠を避ける。
- 教員の指導力向上のための外部研修に参加**  
指導者のための避妊と性感染症予防セミナーに参加した。
- 産婦人科医を招へいした授業の実施**  
2学年を対象にした公開授業を実施した。

### 【成果】

- 生徒の意識に関する成果**  
授業後のアンケートでは、理解が深まっているのと感想が多かった。
- 生徒の態度に関する成果**  
授業の中で、相手を尊重する考えや態度について、自分の発言をするようになった。家族計画についても、真剣に考える様子がうかがえ、理解を深めることができた。
- その他（教員の授業改善など）**  
産婦人科医の話を聞ける機会となり、保健体育科や家庭科の授業の参考となった。

### 【取組（詳細）】

#### ○ 保健における性教育

2学年が履修する保健の授業では、重点単元に性教育（妊娠・出産、避妊・人工妊娠中絶、結婚）を挙げ、ペアワークを実施し、理解を深めることができた。

#### ○ 家庭基礎における命を育む教育

2学年が履修する家庭基礎の授業では、胎児人形を扱い、生涯の健康や命の大切さについて考えた。

#### ○ 教員の指導力向上のため外部研修に参加

- 養護教諭が「指導者のための避妊と性感染症予防セミナー」に参加  
自分の体や人生は自分のものであり、性についても出産・中絶についても自分で決めることができるという視点を学ぶことができた。もっと性に対して主体的に考え、実践していくべきという講義内容であった。  
また、避妊・月経困難症におけるピルの使用は、女性が性に対して主体的になれるということ、正しい認識が大切だということが分かった。  
今後、保健指導の際に知識として活用し、保健室から発信していきたい。

#### ○ 産婦人科医を招へいした公開授業の実施

「現在・将来にも大切な性的話」をテーマに、産婦人科医を招へいし、「妊娠と避妊」・「性行為感染症とは」・「性・身体に関する正しい情報源」について、2学年を対象に実施した。  
事前の打ち合わせにおいて、本校生徒の実態について情報共有し、授業内容の要望をお伝えしながら進め、本校に即した内容の公開授業となった。

#### <生徒の感想>

- ・保健の授業中に理解が難しくテストで解けなかった部分を説明していただいたので、今後に役立てることが出来そう。
- ・将来家族ができた時のために、出来ることに一つ一つ取り組んでいこうと思いました。
- ・性について考えることがたくさんあり、それにたいして正しい選択ができるようにしたいと思いました。



家庭基礎の授業風景



公開授業の様子